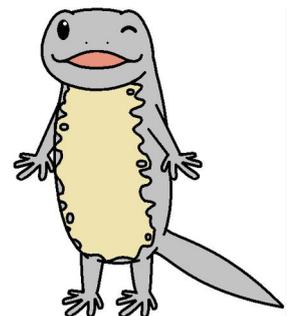


第2章 第2期環境基本計画の概要

計画の目標と進捗状況について、説明するモリン。



第2期環境基本計画の概要

1 第2期環境基本計画とは

「会津若松市第2期環境基本計画」（計画期間：平成26年度から令和5年度の10年間）は、環境基本条例第3条の基本理念に基づき、環境施策を総合的かつ計画的に推し進めるため、平成26年3月に策定したもので、本市のまちづくりの指針である第7次総合計画を環境面から実現する、環境行政の最上位の計画です。

(関連資料：90ページ 資料1)

2 本市の望ましい環境像

今日、これまでの大気汚染等の公害問題や都市化の進展、生活様式の変化による廃棄物の増大、騒音問題といった地域的な問題のほか、地球温暖化、資源・エネルギー問題等の地球規模の問題が深刻化しています。

とりわけ、東日本大震災以降は、除染等による環境回復や地域における再生可能エネルギーの供給システムの確立、環境と社会との共生・持続可能性の仕組みづくりが求められています。

また、平成27年9月、国連総会において「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、国際社会が持続可能な社会の実現のために取り組むべき課題として「持続可能な開発目標（SDGs）」が示されました。この中で、環境問題は、経済的・社会的な課題と相互関連し、不可分であることが明記されています。

本市においても、地球環境の保全や地球温暖化防止、都市型公害を含む様々な公害等に対応しながら、本市の豊かな自然環境を健全で恵み豊かに将来の世代に引き継ぐことと、東日本大震災からの地域経済の活力再生や地方創生に向けた取組との調和を図っていく必要があります。

また、本市では、健康や防災、エネルギー、環境といった市民生活を取り巻く様々な分野での連携を深めながら、将来に向けて、持続力と回復力のある力強い地域社会、市民が安心して快適に暮らすことができるまち、「スマートシティ会津若松」を目指して様々な取組を進めています。

こうした状況を踏まえ、私たちは、一人ひとりの行動が地球環境に影響を及ぼしていることや、私たちが生活する上で、環境の保全は欠かすことのできないものであることを認識し、環境を守りながら、快適で豊かな生活を目指すこと（＝スマート）が重要となります。

本計画では、この『スマート』な考え方や行動規範を基本とし、自然や生活環境を良くしていく取組、ムダのない省エネルギーに配慮した生活、再生可能エネルギーの活用などを、市民や事業者、行政が連携・協働し取り組むことにより、自然環境と事業（経済）活動、日常生活とが調和した社会を目指します。

「望ましい環境像」 (第2期環境基本計画が目指すまちの姿)

「土・水・緑 そして人 共に創るスマートなまち 会津若松」



環境を守りながら、快適で豊かな生活を目指すこと



3 「持続可能な開発目標 (SDGs)」との関連について

「持続可能な開発目標 (SDGs)」は、2030年までに先進国も途上国もすべての国が関わって解決・達成すべき世界共通の目標として、平成27年9月、国連で採択されました。エネルギーや水資源、気候変動など環境に関する課題だけでなく、貧困や保健、教育や経済成長など、幅広い課題に関する17項目のゴール(目標)とそれらに付随する169のターゲット(達成基準)によって構成されており、環境問題はこれらの経済的・社会的な課題と不可分であることが明記されています。

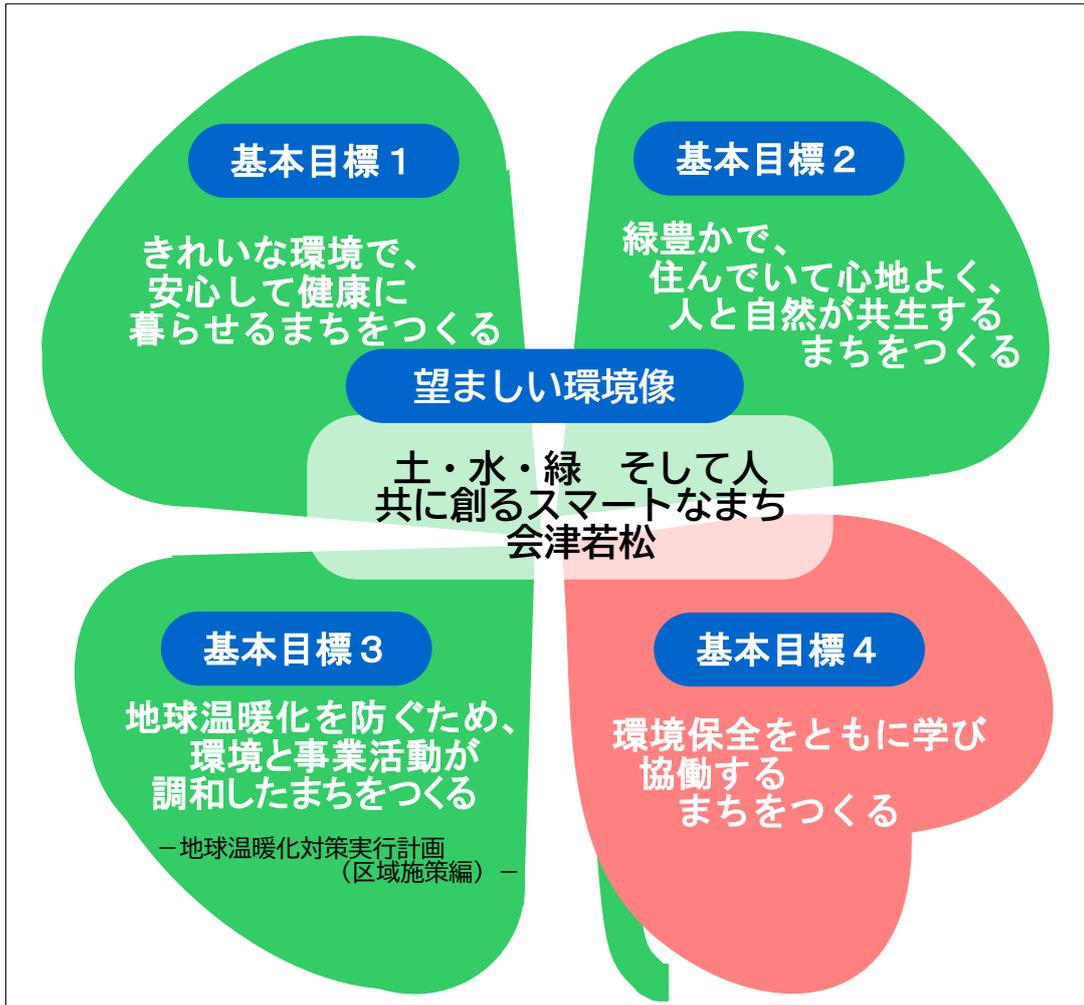
こうした考え方は、「良好な環境を保全及び創造し、将来の世代に継承していく」責務を明記している会津若松市環境基本条例や、「環境を守りながら、快適で豊かな生活を目指すこと」を「スマート」と定義し、「環境の負荷の少ない持続的発展が可能な社会、人と自然が共生し市民が安心して暮らせる社会づくり」を目指す「第2期環境基本計画」にも反映されております。

【「第2期環境基本計画」に関連するSDGsロゴマーク】



4 環境基本計画の基本目標と個別目標

「望ましい環境像」を実現するため、以下の「基本目標」と「個別目標」を設定します。



基本目標の実現に向けた個別目標

基本目標1

- 1-1 空気や水がきれいで安心して暮らせるまち
- 1-2 環境と生活スタイルが調和した快適なまち
- 1-3 放射能の不安のない安心なまち

基本目標2

- 2-1 豊かな自然環境を守り、育てるまち
- 2-2 美しい里山と農地を守り、活かすまち
- 2-3 猪苗代湖の水環境を守り、次代に引き継いでいくまち
-猪苗代湖水環境保全計画-

基本目標3

- 3-1 再生可能エネルギーの地産地消ができるまち
-新エネルギービジョン、バイオマス活用推進計画-
- 3-2 みんなでCO2を減らすまち
- 3-3 再生可能エネルギーとICTを活用したまち
- 3-4 「もったいない」が息づくまち

基本目標4

- 4-1 みんなで考え、みんなで学ぶまち
- 4-2 協働の輪を広げ、環境にやさしいまち

5 令和2年度 環境目標進捗状況一覧

個別目標	環境目標	目標値と実績値			R2実績値の評価					
		現状値(H24)	R1実績値	R2実績値	目標値(R5)	前年度との比較	目標達成状況			
基本目標1	1-1	水路への油漏れ事故等の件数	9件	8件	13件	0件	↘			
		地下水の有機塩素化合物未検出率	56%	67%	56%	100%	↘			
	1-2	河川の水質の環境基準達成率	71%	100%	100%	100%	→	達成		
		汚水処理人口普及率	79.7%	87.0%	87.4%	87.9%	↗			
		自動車騒音に係る環境基準の達成率	100%	100%	83%	100%	↘			
	1-3	毎時0.23μSv(追加的被ばく線量の推計が年間1mSv)を超える地区の数	7地区	0地区	0地区	0地区	→	達成		
放射線の影響を不安に感じる市民の割合		44.8%	(H30) 31.0%	(H30) 31.0%	0%	-				
基本目標2	2-1	森林施業面積	1,347ha	1,945ha	1,999ha	2,267ha	↗			
		自然環境や動植物の保護を行う市民の割合	21%	(H30) 10.5%	(H30) 10.5%	60%	-			
	2-2	環境保全型農業直接支援対策事業の対象面積※	(H27) 5,987a	3,929a	7,580a	(R8) 7,000a	↗	達成		
		担い手に集積された農用地の面積割合	59.1%	78.3%	76.8%	(R8) 78%	↘			
	2-3	農業集落排水施設水洗化率		赤井:97.0% 共和:90.4%	赤井:98.9% 共和:93.1%	赤井:98.9% 共和:94.0%	赤井:100% 共和:94.8%	↗		
		高度処理型浄化槽の普及率		25.9%	31.5%	32.9%	45%	↗		
		猪苗代湖・流域清掃活動参加者数		514名	463名	0名	600名	↘		
		中田浜	COD	0.7mg/ℓ	1.2mg/ℓ	1.1mg/ℓ	0.7mg/ℓ以下	↗		
			全窒素	0.18mg/ℓ	0.10mg/ℓ	0.20mg/ℓ	0.2mg/ℓ以下	↘	達成	
			全リン	0.011mg/ℓ	0.007mg/ℓ	0.004mg/ℓ	0.01mg/ℓ以下	↗	達成	
		赤井川	BOD	1.4mg/ℓ	1.2mg/ℓ	1.1mg/ℓ	1.2mg/ℓ以下	↗	達成	
			全窒素	1.24mg/ℓ	0.67mg/ℓ	0.85mg/ℓ	1.1mg/ℓ以下	↘	達成	
			全リン	0.093mg/ℓ	0.063mg/ℓ	0.095mg/ℓ	0.08mg/ℓ以下	↘		
	原川	BOD	0.8mg/ℓ	0.9mg/ℓ	0.5mg/ℓ	0.8mg/ℓ以下	↗	達成		
		全窒素	0.53mg/ℓ	0.36mg/ℓ	0.40mg/ℓ	0.5mg/ℓ以下	↘	達成		
全リン		0.031mg/ℓ	0.040mg/ℓ	0.018mg/ℓ	0.03mg/ℓ以下	↗	達成			
基本目標3	3-1	再生可能エネルギーの供給目標値(熱量換算)		太陽光発電	(H22) 20.3TJ	(H28) 115.3TJ	(H29) 119.9TJ	344.3TJ	↗	
		太陽熱利用	(H22) 0.3TJ	(H28) 0.5TJ	(H29) 0.5TJ	0.5TJ	→	達成		
		風力発電	(H22) 0.0TJ	(H28) 381.5TJ	(H29) 381.5TJ	750.1TJ	→			
		水力発電	(H22) 6,206.7TJ	(H28) 6,170.0TJ	(H29) 6,199.0TJ	6,245.3TJ	↗			
		うち小水力発電(1,000kW未満)	(H22) 61.2TJ	(H28) 61.2TJ	(H29) 52.7TJ	99.8TJ	→			
		地熱発電	(H22) 0.0TJ	(H28) 0.0TJ	(H29) 0.0TJ	0.0TJ	→			
		うち地熱バイナリー発電	(H22) 0.0TJ	(H28) 0.0TJ	(H29) 0.0TJ	0.0TJ	→			
		バイオマス発電	(H22) 0.0TJ	(H28) 390.4TJ	(H29) 390.4TJ	392.3TJ	→			
		バイオマス熱利用	(H22) 12.8TJ	(H28) 14.7TJ	(H29) 14.8TJ	417.1TJ	↗			
		バイオマス燃料製造	(H22) 2.1TJ	(H28) 2.0TJ	(H29) 2.0TJ	3.1TJ	→			
		温度差熱利用	(H22) 6.8TJ	(H28) 12.3TJ	(H29) 12.4TJ	7.2TJ	→	達成		

個別目標	環境目標	目標値と実績値			R2実績値の評価				
		現状値(H24)	R1実績値	R2実績値	目標値(R5)	前年度との比較	目標達成状況		
基本目標3	再生可能エネルギーの供給目標値(熱量換算)	雪氷熱利用	(H22) 0.0TJ	(H28) 0.0TJ	(H29) 0.0TJ	0.0TJ	→		
		計	(H22) 6,249.0TJ	(H28) 7,086.8TJ	(H29) 7,120.5TJ	8,160.0TJ	↗	達成	
		一次エネルギー需要	(H22) 15,976.5TJ	(H28) 3,995.7TJ	(H29) 2,770.8TJ	14,245.8TJ	↘		
		一次エネルギー需要に占める再生可能エネルギー供給量の割合	(H22) 39.1%	(H28) 50.6%	(H29) 55.8%	57%	↗		
	バイオマスの活用目標	廃棄物系バイオマス	生ごみ利用率	(H22) 27%	19%	21%	50%	↗	
			下水汚泥利用率	(H22) 23%	64%	61%	60%	↘	達成
		未利用系バイオマス	廃食用油利用率	(H22) 26%	56%	39%	60%	↘	
			間伐材利用率	(H22) 0%	38%	85%	20%	↗	達成
	3-2	省エネ診断等の受診施設数(平成21年度からの累計)		(H22) 4件	38件	45件	70件	↗	
		各家庭における節電・節水等の省エネ取り組み率		76%	(H30) 72.8%	(H30) 72.8%	100%	—	
		エコドライブ宣言者数		(H22) 164名	364名	414名	450名	↗	
		「福島議定書事業」参加団体数(市内)※		(H29) 事業所:92 学校:21	事業所:94 学校:17	事業所:97 学校:10	事業所:230 学校:50	↘	
		「エコチャレンジ事業」参加世帯数(市内)※		(H29) 117世帯	159世帯	81世帯	500世帯	↘	
	3-3	電気自動車・プラグインハイブリッド車台数		(H22) 5台	359台	376台	8,000台	↗	
		充電器設置数(一般家庭除く)		(H22) 6基	33基	33基	40基	→	
	3-4	1日1人あたりのごみ排出量		1,222g	1,257g	1,241g	1,031g	↗	
総リサイクル量		13,038t	11,752t	11,726t	13,000t以上	↗			
基本目標4	4-1	環境教室(子ども向け・市民向け)参加者数		117名	113名	47名	450名	↘	
		環境関連の出前講座の実施回数		37回	21回	11回	50回	↘	
	4-2	環境関連イベントの参加者数		5,191名	4,809名	0名	7,000名	↘	
		公園等緑化愛護会数		84団体	77団体	72団体	85団体	↘	

※第2期環境基本計画(改訂版)から新たに追加した環境目標

6 市域全体の温室効果ガス排出量(推計値) 状況一覧

部門	目標値と実績値(単位:千トンCO2)			H28実績値の評価		
	基準年度(H22)	H28実績値	H29実績値	目標値(R5)	前年度比	基準年度比
産業部門	233.2	236.2	207.3	298.4	-12.2%	-11.1%
民生家庭部門	219.2	225.3	222.9	233.3	-1.1%	1.7%
民生業務部門	297.3	282.0	215.6	264.2	-23.5%	-27.5%
運輸部門	176.1	179.5	164.3	166.3	-8.5%	-6.7%
その他	92.8	156.1	156.8	40.0	0.4%	69.0%
再生可能エネルギーの導入による削減量	—	-46.9	-47.1	-118.6	0.4%	—
計	1,018.6	1,032.2	919.8	883.6	-10.9%	-9.7%